

内閣総理大臣 安倍晋三様
国土交通大臣 石井啓一様
防衛大臣 岩屋 肇様

2019年1月15日

沖縄YWCA
会長 糸洲のぶ子

辺野古・大浦湾への土砂投入強行に対する抗議文

2018年12月14日名護市辺野古の新基地建設のための土砂投入が始まり、1ヶ月が経ちました。この間も日本政府は多額の予算と人員を投入し、新基地建設に反対する市民を押さえつけ、口をふさぎ、暴力的に土砂の運搬・投入を続けています。昨年の県知事選で8万票もの差をつけ玉城デニー知事が誕生したこと、沖縄の民意は改めてはっきり示されました。しかし安倍首相は「沖縄の皆さん的心に寄り添う」という所信表明とは真逆の対応を続けていることに強い憤りを覚えます。私たちは、すべての者の命と人権が守られる社会を目指して活動する沖縄YWCAのメンバーとして、わけても以下のことを根拠に辺野古新基地建設の埋め立てに抗議します。

- ① 辺野古・大浦湾は世界的に見ても大変希少な沿岸生態系を有しており、最優先に保全すべきエリアの一つというのは広く知られています。ですが、ただ科学的に貴重であるだけでなく、県民にとって海は命の母です。沖縄戦直後、焼け野原に放り出された人々は海でとれたものによってかろうじて生き延びました。また古くから、沖縄の民は海の恵みによって生かされてきました。海を渡って他国との絆を結び、豊かな国づくりをしてきました。沖縄の民にとって海は世界を繋ぐものであり、また命を生み出す場所です。破壊するものを作る場所では決してないのです。
- ② 沖縄が軍事要塞になれば、攻撃を受け再び戦場になることは免れません。それは今ここで生きている私たちの命と生活が奪われることであり、沖縄の未来を無残にも奪うことです。沖縄戦により被害者として今も癒えぬ深い傷を負っただけではありません。ベトナム戦争の時には、米軍機が飛び立っていく「悪魔の島」と呼ばれ強制的に加害者とさせられる、という傷も負いました。沖縄が攻撃のための基地とされることは、日本政府と米政府により沖縄がさらに何重もの傷を負わされ、命と生活を搾取され続けるということにほかなりません。

沖縄は「琉球処分」以降、自分たちの命と生活にかかわることを自分たちで考え選び取る権利を奪い去られました。今も国策としての「沖縄いじめ」は続けられており、沖縄の犠牲の上に日本の「安定」は成り立っています。ですが沖縄の海は私たち県民のものです。美しく貴重な海をつぶされたくないという願いと、これ以上日本政府の身勝手で被害者・加害者としての傷を負わされたくないという沖縄県民の怒りの声に真摯に耳を傾けてください。